

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年6月18日(2020.6.18)

【公表番号】特表2018-508571(P2018-508571A)

【公表日】平成30年3月29日(2018.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2018-012

【出願番号】特願2017-560858(P2017-560858)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/26	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	1/12	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	5/50	(2006.01)
A 6 1 K	47/68	(2017.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	47/18	(2006.01)
A 6 1 K	47/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/26	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
C 0 7 K	16/28	(2006.01)
C 0 7 K	14/605	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	38/26	
A 6 1 P	3/04	
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	1/12	
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 K	39/395	C
A 6 1 K	39/395	L
A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 K	39/395	M
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	5/50	
A 6 1 K	47/68	
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 K	47/18	
A 6 1 K	47/12	
A 6 1 K	47/26	
C 0 7 K	19/00	Z N A
C 0 7 K	16/28	
C 0 7 K	14/605	

【誤訳訂正書】

【提出日】令和2年4月27日(2020.4.27)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

本発明のGLP-1R抗体融合タンパク質は、GLP-1またはその類似体を含み、それがそのC末端において、ペプチドリンカーにより、GLP-1R抗体の軽鎖のN末端に融合されている。この抗体融合タンパク質は、GLP-1およびその類似体と比べて、同様または改良された生物活性と、長い半減期とを有する。好ましいGLP-1R抗体融合タンパク質の軽鎖可変ドメインの配列は、配列番号1、2、3、4、5、または6の全部または一部を含み、軽鎖定常ドメインの配列は、配列番号10または11の全部または一部を含み、かつ重鎖可変ドメインの配列は、配列番号7、8、または9の全部または一部を含み、かつ重鎖定常ドメインの配列は、配列番号12の全部または一部を含む。より好ましいGLP-1R抗体融合タンパク質の軽鎖可変ドメインの配列は、実質的に配列番号1、2、3、4、5、または6であり、軽鎖定常ドメインの配列は、実質的に配列番号10または11であり、重鎖可変ドメインの配列は、実質的に配列番号7、8、または9であり、かつ重鎖定常ドメインの配列は、実質的に配列番号12である。最も好ましいGLP-1R抗体融合タンパク質の軽鎖可変ドメインの配列は、配列番号1、2、3、4、5、または6であり、軽鎖定常ドメインの配列は、配列番号10または11であり、重鎖可変ドメインの配列は、配列番号7、8、または9であり、かつ重鎖定常ドメインの配列は、配列番号12である。